
普通を普通に過ごすんだ。

夢兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

普通を普通に過ごすんだ。

【Nコード】

N9672X

【作者名】

夢兎

【あらすじ】

気ままライフの僕の生活です。

1（前書き）

安達 悠「アダチ ユウ」 19歳、学生。

―…え、好きなもの？

絵描きと音楽と甘いもの…そして、普通に過ごすこと。

藤谷 真尋「フジタニ マヒロ」 19歳、馬鹿。

―…俺はバンドで食っていくの！

そー決めたんだよ、おわかり？わかったら応援しやがれえー！

春川 まゆ「ハルカワ マユ」 19歳、元カノ。

―…別れた理由？

平凡より非凡な方が好きなの、あたし。だから馬が合わないな―っ
て感じかな、うん。

御崎 竜也「ミサキ リュウヤ」 21歳、憧れ。

―…たっちゃんはやめろよ？！

俺、もう二十歳過ぎたし…っっていつてるそばから呼ぶな―っ！

愛と正義と友情と…

なんて無いですから、皆無ですから。

気ままに普通を過ごします。

執筆：2011・10・24
}

どうしてこうなったのだろう…。

僕は確かにいつもの電車に乗り、いつもの通りに満員電車に揺られ、いつもと同じように改札を

「あれー…」

「お兄さん、」

同じように…改札を…

「、切符買わせてください…」

改札を抜けられなかった。

僕は、安達 悠。

19歳の学生で、デザイン系の専門学校に通っている。

友だちには恵まれてる、彼女は…今は、いない。

好きなものは絵描きと音楽と甘いもの…と、多々ある。

絵描きは、小さい頃での母の影響。母は油絵がすきだったが、僕はどちらかと言えば、水彩画や水墨画がなど和風なものがすきだ。

音楽と言えば、父の影響。日本のもの、所謂J・POPっていうの?…、まあ、そういうものからロック、パンク、R & amp; B、アニソン、洋楽… などなど。

ここまででわかったと思うが、父も母も芸術肌だ。たとえ分野が違っていてわかるものがあるらしい、父曰く…。

基本的に自由奔放な両親。

そこに生まれた僕も少なからず、両親の影響を受けた、だからこうして片道一時間もかかるような学校に通い、自由奔放に生きている。

と、これを前置きとしよう。

さて、問題はまだ解決していない。僕は、定期を盗まれたのだ。

いつも通りを壊されたのはかれこれ15分前…。

まだ冬の寒さが明けたばかりの昼下がり、日曜日、時刻は2時。

電車に揺られ、流れる景色にぼーっと眺めていた。比較的、眺めの良い場所を通る電車を選んだつもりだ。

（あー、今日のおやつは何がいいだろうか…）

愛娘ならぬ愛猫…みいちゃん「♀」のおやつを僕は頭の中で漠然と
考えていた。

（やばい、眠い、）

もうすぐ駅だというのに瞼が降りてきた。心地よい振動と陽射しに
僕はすっかり目を閉じた。

今思えば、これが間違いだった…。

『——…ぎは、——…駅、お降りの方は……—。』

………ん…？

「はえ…？」

……だ、誰もいない?!?!

頭をフル回転させるまでの時間、約3秒…気づけば目的の駅についていた。慌てて駅に降りる。

この時もまだ僕は気づいていない。

「…くあ。」

眠てー、だりいー、こんな気持ちのいい日は部屋でみいちゃんとゴロゴロしたい。

と、あっという間に改札に到着。まだ僕は気づかない。

「え、つと…定期定期、」

……あれ?

定期が、ない。

僕は気づいてしまった。
定期がないことに…。

「あれー…」

「お兄さん、」

はよ進めや、ゴラア。

爽やかに腹黒怖いです、駅員さん。

こうして文頭に戻るのだった。そうして切符を買い、改札を抜ける。さっきの出来事で遅刻は決定…もう、ため息しかでない。

いつだってそうなのだ。

普通に…みんながいう平凡に僕は生きたいだけ。なのに訪れるのはトラブル、毎日は非凡なのだ。

「はあああああー…」

大きな大きなため息。

幸せなんてしるもんか。

逃げていったってこんな毎日は、まあ…不幸じゃないけど。でも、やっぱり平凡な日々を生きていたい。

「で？俺に慰めてほしい、と…相変わらずだな」

「たっちゃん、マジ助けてー」

「たっちゃん言っな！」

たっちゃんこと竜也兄ちゃん。

さすがに叩かれると痛いです、はい。

「お前さー…昔っからずー…っとうだよな」

「知らないことに絡まれ、巻き込まれ…あーやだやだ」

「そして、お人好しだから見捨てられない！」

あはは、と笑ってたっちゃんはグラスを口に運ぶ。

たっちゃんと出会ったのは小学生の頃。再会は高校に入ってからだった。

小学生だった当時、家は目と鼻の先。毎朝会うものの仲良くなったのは随分と経ってから。兄貴のように慕うまで、時間はかからなかった。

たっちゃんは中学に入ると同時に県外に引っ越した。

そうして戻ってきたのは2、3年前のことだ。

―…” 成人式、こっちにでたらあっちいるのめんどくなった。”

とのことだ。「うへー…」

疲れた疲れた。

たっちゃん呑むと性格変わるんだもん…まったく困った人だ。

「みーちゃん」

彼女はゴロゴロと喉を鳴らして、僕の足に擦り寄ってきた。

うん、かわいい。

彼女は一通り満足すると僕から離れ、自らの家へと帰っていく。

「あ、定期買わなきゃ」

届け出をしたところで、戻ってくる確率は0に近いだろう。むしろ0なんじゃないだろうか…

「はあー…」

（ため息つてつきないなあ。）

もう今日は寝ようかになって布団に潜ると、携帯に着信。差出人は…なんだ真尋か。

……よし、寝よう。

僕は携帯の電源切り、目を閉じた。

おやすみなさい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9672x/>

普通を普通に過ごすんだ。

2011年11月15日11時35分発行